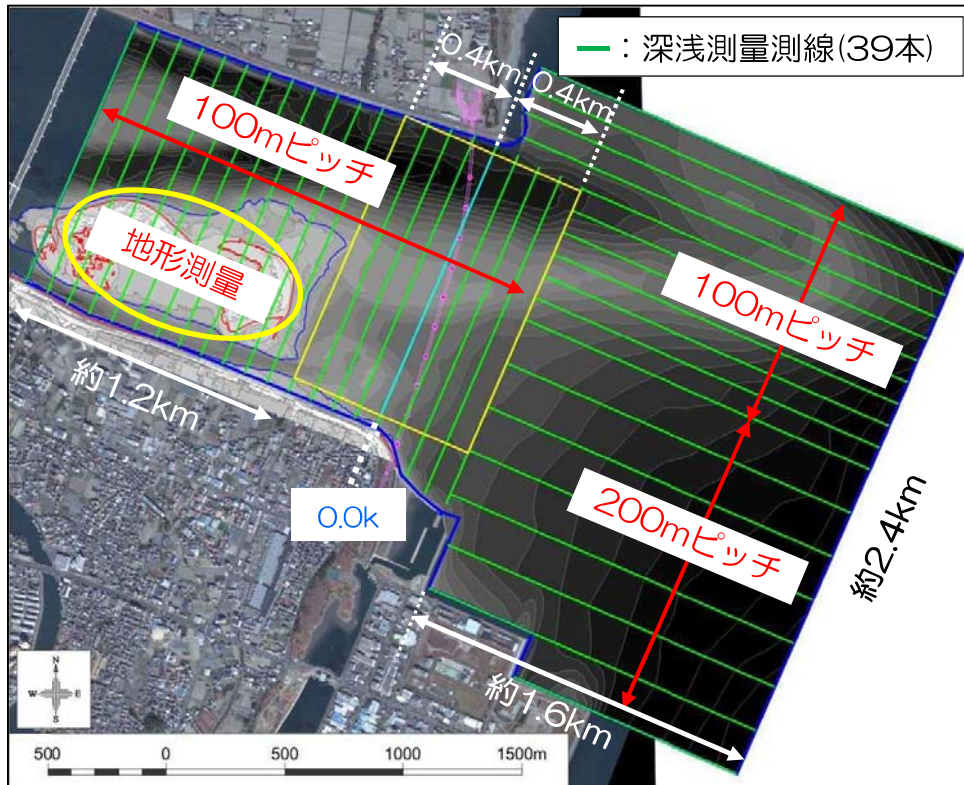


## ■ 地形調査

■ 橋脚の存在による流況変化によって生じる地形変化の監視として、下記に着目した調査を行う。

- ・ 橋脚の存在による影響で生じる地形変化
  - ・ 自然変動で生じる地形変化
- ※ 工事浚渫に伴う地形変化は上記の調査にて把握する。



※ 測線の間隔は100mを基本とし、沖合の河口テラスより以南は200m間隔の測線とする。

## ■ 監視項目

項目	調査の位置づけ	調査箇所	地形調査	
			深浅測量	地形測量
橋脚の存在による影響で生じる地形変化	直接的な影響把握	吉野川距離標0.0kの上下流400mの範囲	○	—
自然変動で生じる地形変化	自然変動の把握	上記の範囲外として、上流に約1.2km、沖合に約1.6km	○	○

## ■ 調査内容及び調査時期

調査区分	調査内容	時期・頻度
事前調査 <b>工事中調査</b> 事後調査	・ 深浅測量 (潮下帯の地形把握)	年2回※1 ・ 夏季：6月 ・ 秋季：10月
	・ 干潟地形測量※2 (河口干潟の形状把握)	年2回 ・ 夏季：6月 ・ 秋季：10月

※1：調査時期は、下部工施工期間(非出水期)を外した時期とし、非出水期(11月～5月)が終わった翌月の6月と、出水期(6月～10月)が終わる10月末頃に実施する。

※2：干潟地形測量は、航空レーザー測量により干潟の地盤高を計測する。